

第9回 生活習慣病教室

「ピロリ菌のはなし」

■日 時：平成22年12月17日（金） 14：30～15：30

■講 師：消化器内科 千葉俊也

自分自身がピロリ菌の除去をしたことがある方が沢山おり、皆さんうなずきながら、熱心に話を聞いていました。ピロリ菌について知らない方がいると思いますが、今回の講演内容を通して、ピロリ菌について少しでも皆さんにご理解して頂けたらと思います。

ヘリコバクター・ピロリ(通称ピロリ菌)とは？

人間の胃の中に住んでいる細菌。

1980年代に発見され、この菌が胃潰瘍・十二指腸潰瘍の原因となっていることが近年明らかになってきています。

「ヘリコ」：らせん・旋回

「バクター」：バクテリア(細菌)

「ピロリ」：胃幽門部(ピロルス)

ピロリ菌はどうして強酸性の胃の中で生きていられるの？

胃の中は胃酸が出ているため、通常の菌は死んでしまいます。

ピロリ菌は特殊な酵素(ウレアーゼ)をもっており、アンモニアを発生して、胃酸から身をもっているため、胃の中で生きることができます。

ピロリ菌はどのように感染するの？

どのように感染するかははっきりわかりませんが、口から感染するのが大部分であると考えられています。衛生環境と関連していることが報告されていて、感染する機会は減ってきていると考えられています。

考えられる原因

- ・ 口一口感染 (菌垢や唾液からピロリ菌が検出された)
※母→子の口うつし、多くが幼少時期に感染する
- ・ 糞一口感染 (糞便からピロリ菌が検出された)
- ・ 飲料水からの感染 (海外で水道水からピロリ菌が検出された)
- ・ 動物を媒体とした感染 (ハエ、ゴキブリ、ネコ)
- ・ 内視鏡を媒体とした感染
※一時「内視鏡を媒体とした感染」が注目されましたが、日本消化器内視鏡学会から「内視鏡の洗浄、消毒に関するガイドライン」が出され、内視鏡の洗浄・消毒が厳重になされるようになりました。

ピロリ菌はどのくらいの人が感染しているの？

ピロリ菌の感染率は国によってずいぶん違いますが、大まかに言えば、発展途上国で高く、先進国で低くなっています。特に上下水道の普及率の悪い所で高いとされています。

また、40歳以上の方は、戦後の衛生状態が悪い時代に生まれ育ったため感染率が高く、約2人に1人は感染しています。日本でも衛生状態の良い環境に育った若い人たちの感染率は低くなっています。

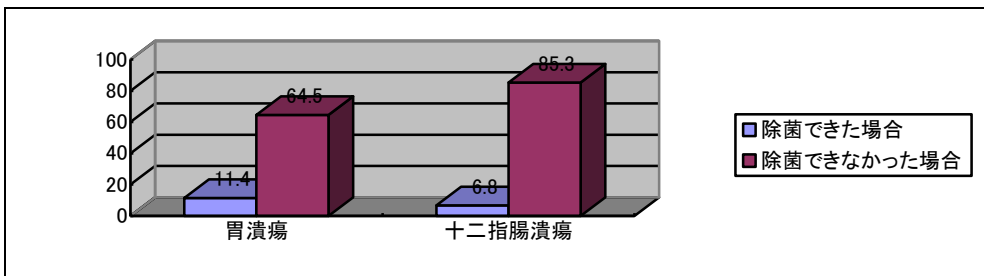
ピロリ菌は胃・十二指腸潰瘍と関係があるの？

ピロリ菌に感染すると、胃に炎症を起こすことが確認されています。

胃・十二指腸潰瘍の患者さんでピロリ菌検査をすると、約 90%の患者さんがピロリ菌に感染していて、ピロリ菌が胃・十二指腸潰瘍の原因になっていることがわかっています。

ピロリ菌がいる場合には1度潰瘍の治療をしても1年後には60%以上の患者さんが再発しています。ピロリ菌の除菌をすることによって胃・十二指腸潰瘍の再発率は著しく低下することが認められています。

1年間に再発する人の割合



ピロリ菌は胃・十二指腸潰瘍の他にどのような悪さをするの？

代表的なものとしては胃がんとの関連性が指摘されています。

ピロリ菌に感染している人と、感染していない人に対して10年間調査を行ったところ、感染している人では2.9%に胃がんが発生したのに対し、感染していない人では胃がんは発生しなかったという研究報告があります。

胃がん、萎縮性胃炎などに加え、消化器以外の疾患でも血小板減少性紫斑病、貧血、蕁麻疹などとの関連が示唆されています。

※保険適用でピロリ菌の検査・除菌治療が行えるのは胃・十二指腸潰瘍、胃MALTリンパ腫、特発性血小板減少性紫斑病、早期胃がんに関する内視鏡的治療後胃の患者さんです。

ピロリ菌の除去治療はどのようにするの？

2種類の抗生物質と胃酸を抑える薬の3種類の薬を朝と夕方の1日2回1週間しっかりと続けてのむことで約80~90%の患者さんはピロリ菌を除去できます。

1回目の除菌治療で除菌が出来なかった場合には、薬を変えて再度除菌治療を行うことが可能です。

2回目の除菌治療では約90%の患者さんで除菌ができます。除菌が成功したかどうかは除菌治療終了後4週間以上あけて検査をすることでわかります。

以上

[過去の「生活習慣病教室レポート一覧」はこちら](#)